

[14-5] 1984年2月24日の全員集会

出席者： 北村、木村、口羽、黒田、小池、須羽、武邑、辻井、林、福井、
梶川、前川、琴川、宮川、宮崎、矢野、立石、Prasert Y.

《データ群別現状報告》

- (1) 皆悉調査(1981)とその追加 口羽、須羽
1981年データの一部のみがコンピューターに入力されている。(付録参照のこと)
1983年追加調査の項目は、付録参照のこと。
- (2) 人口学的調査 福井
全妊娠経験者に結婚、離婚、出産、墮胎、流産、幼児死亡などについてインタビュー。結果未整理。BE2486に多数死亡している。
- (3) 系譜・水田相続・家族人口史 武邑、福井
80年前の所有をポークンにインタビュー。所有の変化を追うことで相続、系譜調査へとつながる。系譜調査で移住の事実が判明。Don Noi とかなり関連性がある。
1981年在村者をもとにして、その家族の誕生、死亡、結婚、移住を調べることによって、DDの人口を50年位遡ることが可能。相続のデータと組合わせて人口扶養力を算出することができる。
- (4) 系譜と屋敷地との関係 小池、武邑
水田相続の場合と同様に屋敷地の相続を調査。
40年前にDDに住んでいた人を家族人口史のデータから推定。彼等がどこに住んでいたかをインタビュー。ほぼ判明した。1944年の戸数は104戸であった。
- (5) 農家経営 宮崎
1981年は sector analysis だけであった。1983年は、農家単位の分析との両方に使えるようなデータを収集した。付録参照のこと。
- (6) 生活時間調査 須羽
NSB水田所有・耕作農家5軒の家族員の行動調査。1983.7.10から1984.3.10ぐらいまでのデータがとれる予定。
5軒各戸の毎日の家計簿のデータもある。

- (7) Nong Sim Ban 調査
- イ. 稲作 ; 付録参照。 宮川、黒田
 - ロ. 野菜 ; 付録参照 宮川
 - ハ. 畑作 ; N S B に土地をもつ D D 住民 20 数軒の農業歴。Daily Survey
の 4 軒については、スアンと同じようなデータがある。
 - ニ. 地形・土壌 ; D D 周辺地形分類図。付録参照。
 - ホ. 水文 ; 付録参照 星川
 - ヘ. 社会的・経済的条件 ; ほとんどを舟橋氏に依存。
- (8) N S B 以外の農業生産
付録参照 宮川
- (9) 畜産 矢野
家畜頭数調査、Q 票調査 (42 戸)、草地調査、草サンプルの採取と成文分析
など。付録参照。
- (10) N S B 以外の気象・水文
付録参照 星川
- (11) 近隣村調査
- イ. 一般情勢 ; 全 32 村。しかし欠落データあり。完全なのは 30 ケ村ほど。
村長またはそれにかわる人にインタビュー。インフォーマントが各村 1 名なの
で cross check できず。 前川
 - ロ. 開拓史 ; 海田、パコンが聴取調査を行ない資料は大部分現地にある。
 - ハ. 土地条件 ; 周辺村の地形と土壌のデータ。それに、近隣村各村の農地の大
体の広がり。 服部、小池
 - ニ. 交通立地条件 ; 車の台数、ソントオの回数、運賃、道路状況などのデータあ
り。 前川
 - ロ. 宗教・儀礼 ; 儀礼の観察のほか、寺院、儀礼、世界観、その変遷について聴
取調査。1940年代は変化の時期ではないか? 林
- (13) 地域史
東北タイの歴史に関する文献はほとんどない模様。タイ語の文献の収集、要約
の作業にとりかかっている。 林
- (14) 現金収入額の変遷
D D 住民を年令別、性別に 50 人抽出して調査。被調査者の現金収入に関する
ライフヒストリーのようなもの。補助データ、参考データの的なものになるであ

ろう。General informationに含まれている事柄をデータでおさえることになる。

- (15) 潜在失業
低就業のついてミクロの見地から生活時間調査のQ票を使用して調べてみたい。
辻井

- (16) 栄養と衛生
木村、翠川
83年調査；食事調査（定量化の試み）、水質調査
84年調査；11月10日頃から約1ヶ月。ビタミンB1欠乏（かっけ）を中心とした医学調査。水質調査で池の水の水質が一番良いことが分かったので村人に飲むようすすめてみたい。

- (17) 稼敷地、地図の地図
北村、前川
81年以降にできた家を測量した。

《テーマ別分析の構想》

- (1) 「スム」
口羽
「家族・親族のモデルのあり方は、社会組織モデルのあり方である」という仮説のもとに、家族のコアになるものを抽出してみたい。社会班各自のテーマとは別に、付録に示される形に全体をまとめられれば理想的であると考えている。

- (2) 「村経済の基本構想」
宮崎
対人関係の濃密度に対応して農地の貸借形態が変わる。現金経済に対する経済単位は各家族であり、自給経済のそれは親族である。DDは、現在両者の中間に位置する。

経営単位あるいは経営主体がなにであるかというような問題は、経済だけの問題ではない。全社会班の問題でもあるし、その結論は、自然科学関係の分析の全体に影響する。総合的な検討が必要であるし、また、それができるところが、本研究班の特徴である。

生産関数分析の予定もある（辻井）。

- (3) 「農業の cross-sectional 分析」
「農業の time-series 分析」
福井
一応、このふたつの分析が先行し、その総合として、生産と気象とのシュミレーション・モデルを考えてはどうか。

(4) 「生活時間調査」
分析方針はいまだ確定せず。

(5) 「人口増加への対応」 福井
土地、人口、相続、移住に関する分析は、人口増加への対応という観点でまとめられはしないか？

(6) 「『Haa Naa Dii』を常態とする？」 福井
DD研究の全体を貫く主題として、ラーオ人とは、定着農業を生業としながらも、たえず移動を続ける民族であること、その性向が今世紀初頭以来の人口爆発によって促進されたこと、と考えるのはどうか。以前に考えていた、marginality の議論を放棄するのではなく、色々な可能性を考えるという意味で。データの整理もままならぬ現状でこのような議論を展開するのは、時期尚早はあるが。

《その他》

1. 科研費総括に265万円申請。
2. そのための報告書の締切は、1985年3月。
3. 夏の合宿は中止。かわって、より実質的な集中会議を9月初旬に京都。
4. 原則として全員集會を月例とする。4月からの毎月第3金曜日の午後とする。
次回は、4月20日(金) 14:30
於 CSEAS

(以上、文責 須羽、福井)

P.S.

3月1日、河野君が私の研究室に元気な顔を見せにきてくれました。前日、帰国とのこと。舟橋氏も元気とのこと。

50年ほど前の水田分布図としてポーケンが示した図によると、水田面積は現在の2分の1にも満たなかった。1950年代の航空写真によると、当時の面積は現在のものと同様である。したがって、1930、1940年代の比較的短期間に面積が急増したと思われる。しかし、これは個々のケースにあたって確かめる必要がある。ということで、海田、ウテイツトが調査したところ、開田は確かに短期間で進んだが、その理由は、So Ko 1 確保のためであった。つまり、「検地」が開田を一気に進めたことになるそうです。

(福井)